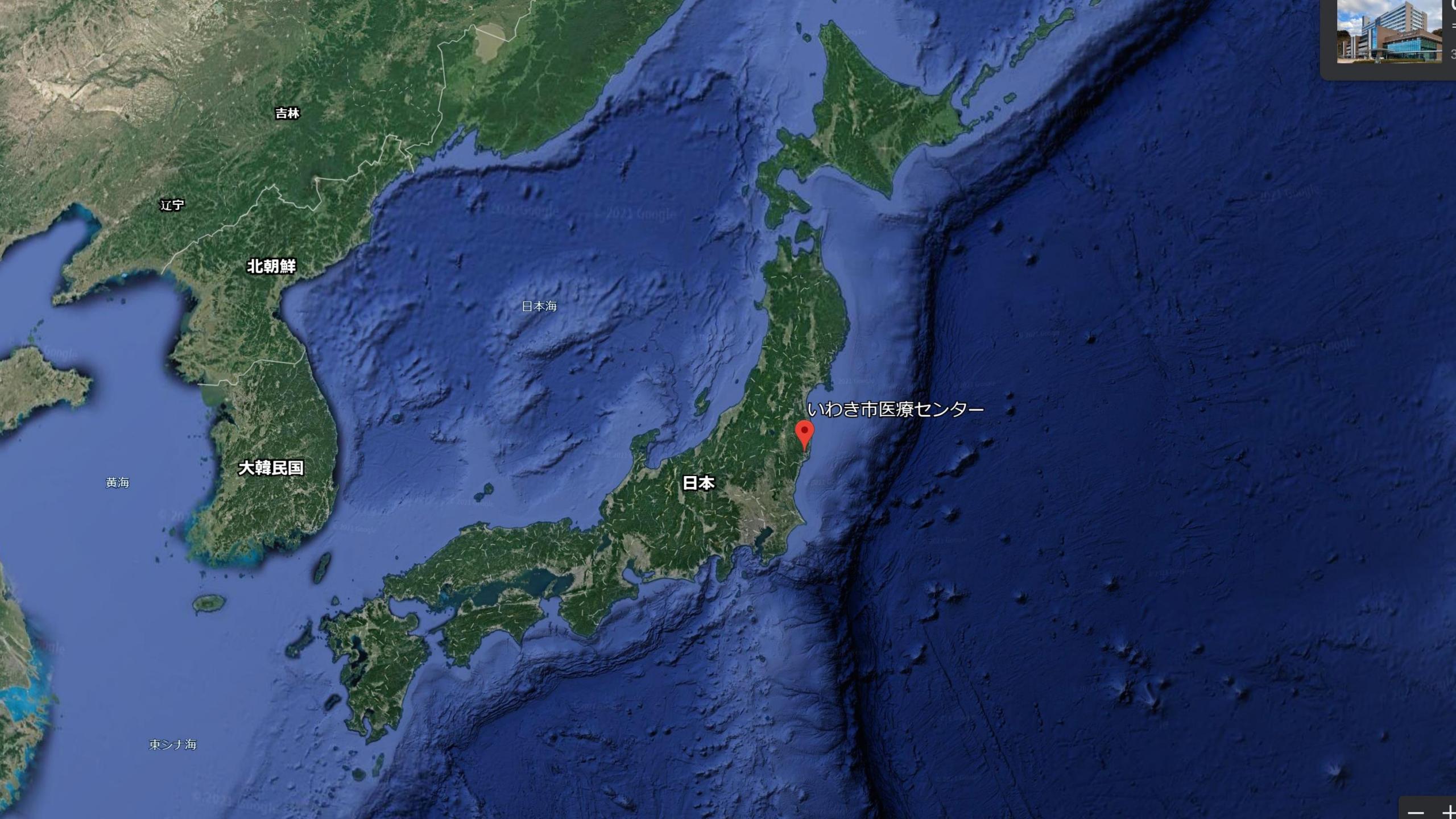
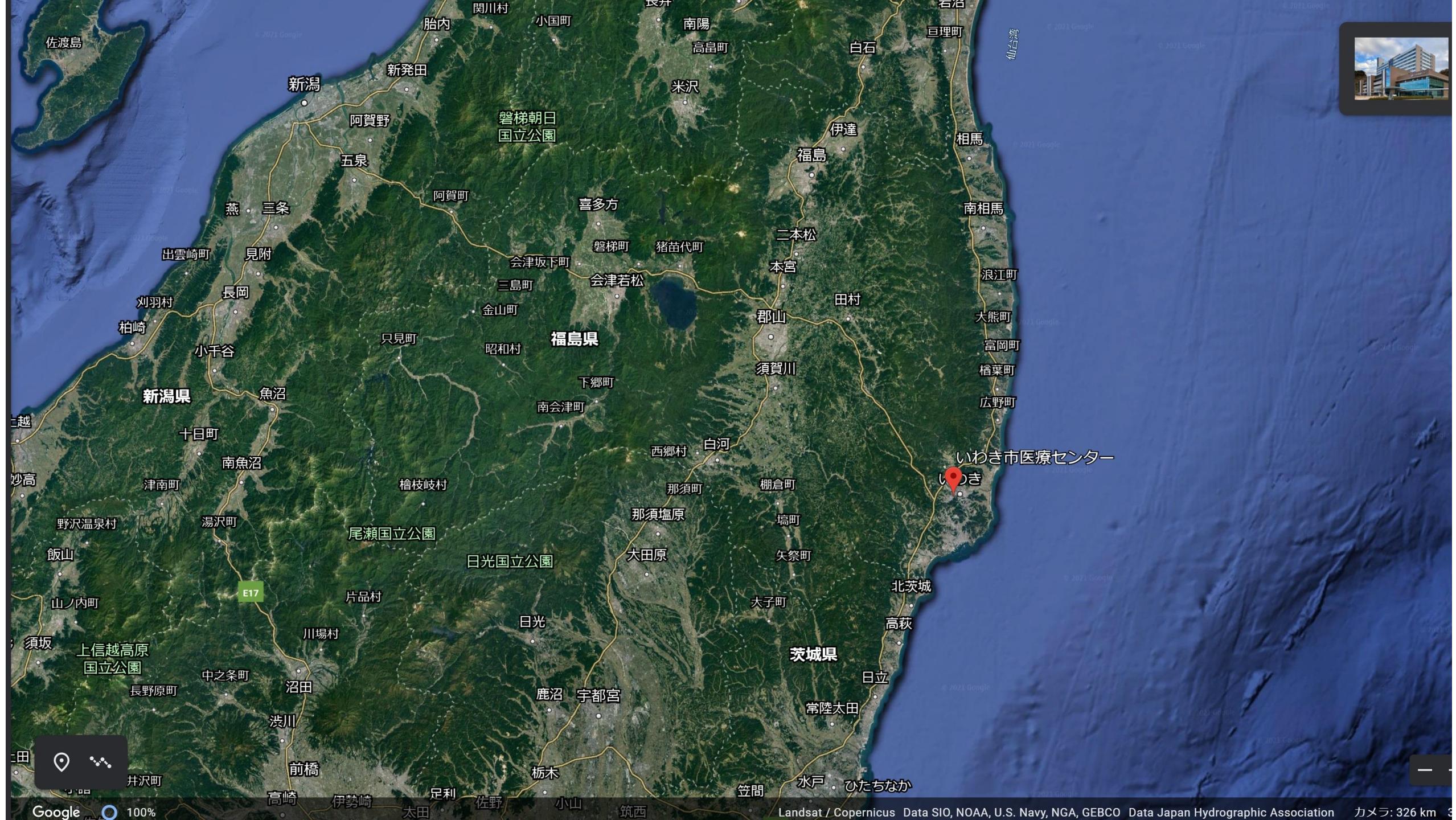




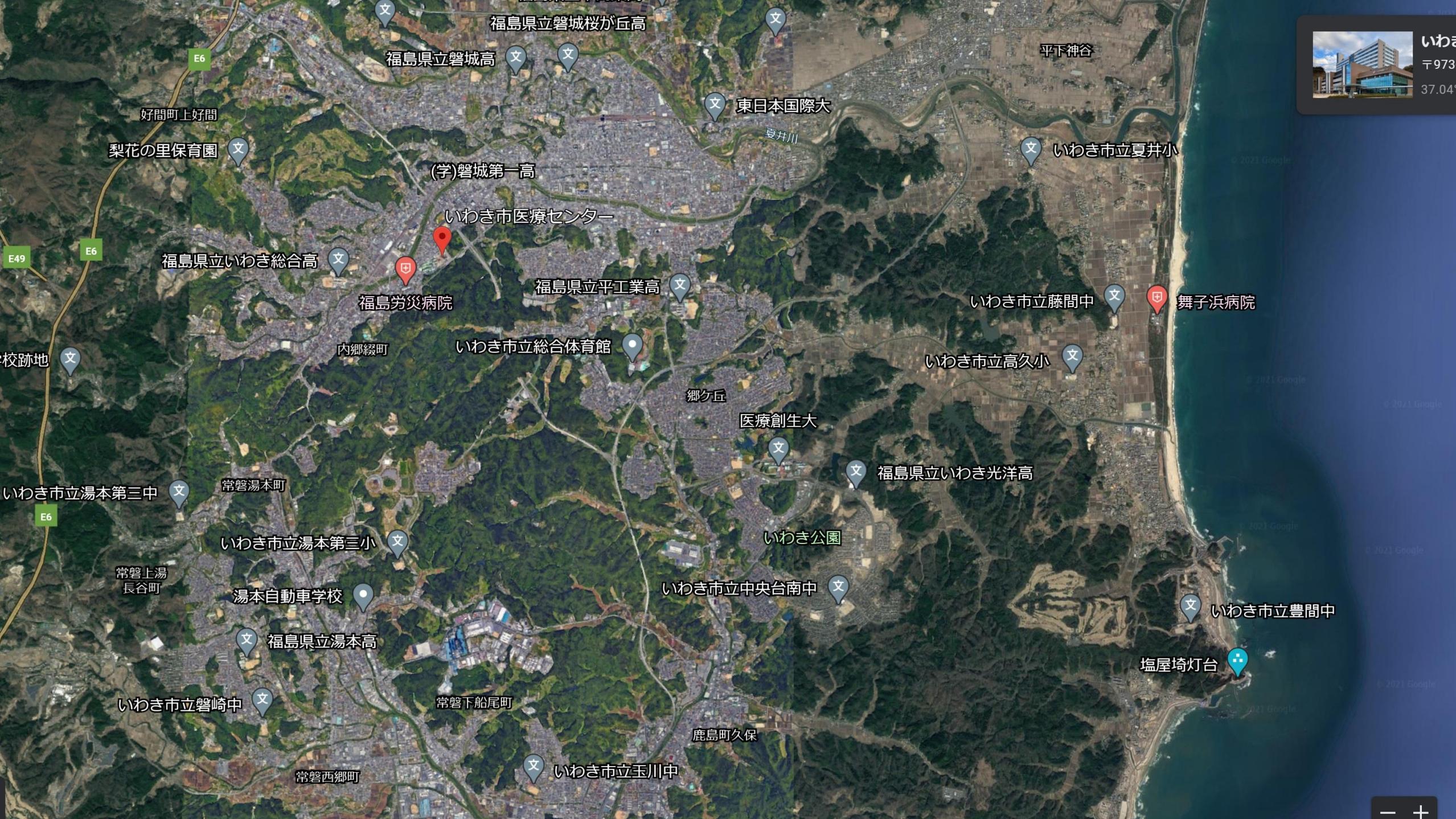
3







いわき
〒973-
37.04°





いわき市立豊間中 文
美空ひばり「みだれ髪」記念歌碑
塩屋崎灯台













止
喫煙



本田義信さん

いわき市立総合医城 共立病院
未熟児新生児科部長

いのちをつなぐひとたち 20

さまざまな「いのち」の周辺で活動している
方を助けてインターネットするコーナーです

東日本大震災で被災した福島第一原発に近いいわき市のNICUで
震災直後から1か月半の間、孤独と闘いながら1人医師として重症の新生児を守った。
私たちに思いやりの気持ちを教えるために、障がいのある赤ちゃんは存在するという医師は、
そんな場所で働く自分は幸運だと話す。

インタビュー・構成：河合 蘭 写真：刑部友康

いわきはいいところですよ。

魚はおいしいし、雨も雪も少ない。福島県は内陸に行くと降雪量が多いのですが、奥羽山脈と阿武隈山地を超えて沿岸のほうに来ると風はからっ風になっているのです。僕はいわきに来てから16～17年になります。

生まれは秋田県ですが、まもなく福島県会津市に来て、5歳以降は福島市内で育ちました。小さい頃から、自分は医者になるものだと思っていました。勉強は得意ではなかったけれど父親が医者で、親戚がみんなそう言うので。高校3年の時、不思議なことに成績が急に上がって本当に医学部に入りました。大学では周りに比べて覚えは

悪いし、要領も悪いので劣等感が積み重なりました。でも今では、僕は自分が医者になったのは、呼ばれてしまったのだと思っています。神様が「本田君、君は勉強はあまりできないけれど、優秀な人とは違ういいところがある。君のそのいいところは、きっと患者さんのために役立つはずだから医師にしてあげよう」と言ったのではないかと、そんな気がしているのです。

希望に惹かれて新生児科医に

医学実習で初めてNICUを見た時は、大きな衝撃を受けました。ひどく不自然な医療に見えて



河合 蘭

2013年5月15日 · ●

...

福島県いわき市へ二日間の旅をしていました。いわき市立総合いわき共立病院新生児科の本田義信先生に『助産雑誌』の取材でした。

私は『卵子老化の真実』に本田先生が診ていらした13トリソミーのお子さんがお母さんと弟さんと津波にさらわれてしまったことを書いています。そして、本を書き終わったら、必ずいわきに行きたいと思っていました。

そして今朝は本田先生と、残されたお父様のところへおまいりにうかがってきました。お父さんは、夢のような楽しい時として、13トリソミーだったお子さんと、最愛の奥様と、その次に生まれたお子さんとの日々のことを話してくださいました。

お父さんは最初はチューブがたくさんついていたわが子をこわいと感じたのに、お母さんは、事実を告げられ対面すると、泣きながら笑っているような顔をして、すぐに赤ちゃんを抱き、絶対にこの子を守っていくとかたく決心されたそうです。そして、その決心の通りに、津波が迫って来た時、お母さんは13トリソミーのお子さんを最後の最後まで守ろうとして流されてしまいました。

塩屋崎灯台を超えて少し先、このきれいな海がたくさん人の命をのみこんでしました。

本田先生とご一緒することができたこの海の、あの潮騒と、ひんやりした優しい潮風のことを見ても、いつまでも忘れることなく覚えていたいと思います。

そして、このお父さんの心にとどり続ける幸せな時間のことを、そして、その幸せの始まりにとてもあたたかい医療があったことを、折に触れ、書いて行きたいです。

